



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島教区
電話099（226）5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



聖年に寄せて（4）

主イエスの復活節を生きる

鹿児島教区司教 中野 裕 明

教区の皆さま、お元気で
しょうか。今回は7週間続
く復活節の意義についてお
話しします。約6週間の四
旬節の後、復活節は聖霊降
臨まで続きます。典礼暦の
この期間のポイントは何で
しょうか。

典礼秘跡省は次のように
教えています。

「受洗者は復活節の教話
を聞き、特に秘跡を受けた
体験を通して、信仰の神秘
をさらに深く悟る。霊的に
満たされたこの人々は、神
のことばのすばらしさを味
わい、聖霊の交わりに入
り、主のめぐみ深いことを
体験する。この体験は、キ
リスト信者独特のもので、
日々の信仰生活を通して増
大し、信仰と教会と世界に
ついて新しい感覚を与え
る。」

ここでの受洗者とは、復
活の主日に洗礼を受けた新
しい信者のことですが、古
い方々も復活徹夜祭のミサ
の中で洗礼の更新をしまし
たので、言われていること
は該当します。
上記の教えを解説しま
す。

つまり、「秘跡」と「信仰
の神秘」の関係です。
まず秘跡とは、洗礼の場
合、司祭の「私は父と、子
と、聖霊のみ名によって、
あなたに洗礼を授けます」
という定句を唱えながら、
その人の額に水を注ぐ行為
を指します。この定句と水
を注ぐ行為は洗礼が有効で
あるための絶対条件です。
この儀式によって、その人
は洗礼の恵みを受けます。
ここでいう恵みは、洗礼の
効果のことですが、何かの
物質的な利益ではなく、
「信仰の神秘」をさらに深
く悟る、ということになり
ます。では、この「信仰の
神秘」とは何でしょうか。
その答えを端的に言い表
すなら、ミサ中の聖変化の
後、司祭が「信仰の神秘」
と唱えた後の会衆の応答に
あります。すなわち、「主
よ、あなたの死を告げ知ら
せ、復活をほめたたえま
す。再び来られるときま
で」です。

だんだん難しい話になっ
てきました。聖パウロの
説明を聞きましょう。
「あなたがたは知らない
のですか。キリスト・イエ
スに結ばれるために洗礼を
受けたわたしたちが皆、ま

たその死にあずかるために
洗礼を受けたことを。わた
したちは洗礼によってクリ
ストと共に葬られ、その死
にあずかるものとなりまし
た。それは、キリストが御

司祭職制定を記念し油を祝別・聖別

今年の聖香油ミサ

聖香油ミサが4月15日
（火）午前11時から鹿児島
カテドラル・ザビエル教会
でささげられた。

「司祭職制定を記念し司
教と司祭の強い絆を表す」
このミサでは、秘跡の執行
人・司祭が秘跡を授ける際
に用いる油（病者のための
油、洗礼志願油、聖香油）



聖香油聖別の祈りを唱える

が祝別・聖別される。この
日のミサには教区内各地か
ら24人の司祭と助祭4人が
駆けつけ中野司教とともに
ミサをささげた。参列した
信者は約70人だった。
ルカ福音書朗読後に説教
した中野司教は、王職、祭
司職、預言職を併せ持つキ
リストからそれらを与えら
れた司祭の役割について解
説した。そのうえで「一人
ひとりの司祭には得手、不
得手があり、3つの職を完

父の栄光によって死者の中
から復活させられたよう
に、わたしたちも新しい命
に生きるためなのです。」
（ローマの信徒への手紙
6・3〜4）
わたしたちはこの時、実
際に死ぬわけではなく、古
い自分、つまり原罪と自罪
に拘束された自分に死ぬの
です。

ところで、秘跡というの
は、儀式のなかでのキリス

5月11日は 世界召命祈願の日

神は、すべての人が誠実に自分の生
涯を送るように招いています。ある人
は、社会の中のさまざまな職場で働く
人として、また夫、妻、父、母として
よい家庭を築くように、そしてある人
は、神と人にと仕える司祭、修道者と
なるように招かれています。神の招き
はこのように人それぞれ異なります
が、自分に対する神の望みを祈りつつ
探していくことが大切です。近年、司
祭や修道者の減少、高齢化が進んでい
ます。とくに「世界召命祈願の日」に
は、司祭、修道者への招き（召命）に
1人でも多くの人がこたえられること
ができるように祈りがささげられます。
この日は、聖パウロ6世教皇よって
1964年に制定されました。

トとの出会いであると言え
ますが、信仰の神秘は、日
常生活の中でのキリストと
の出会いであると言えま
す。
例えば、闘病生活を余儀
なくされている信者さん

や、特に死の危険にある方
などは、まさにキリストと
合体している感覚があるの
ではないでしょうか。それ
は祈りの中で、さらにはこ
聖体拝領の中で、強く実感
できるはずです。「さらに

深く悟る」はこのような体
験を指していると思いま
す。
さらに、典礼秘跡省の教
えを紹介します。
「秘跡にあずかる生活を
通して聖書の理解が深まる
とともに、人間理解と共同
体の体験も豊かになる。こ
の期間、受洗者は代父母に
助けられて他の信者と親し
くなり、すでに洗礼を受け
た信者も、新しい視野と新
しい刺激を与えられる。こ
のため、入信直後の導きは
教会全体にとってきわめて
重要な時である。」（「カ
トリック儀式書 成人のキ
リスト教入信式」39番、40
番）
教会全体が、主の復活の
恵みで満たされますよう
に。

駆けつけたコンベンツアル
会の金照一（キム・ヒーイ
ル）神父とニコラス・スワ
イヤテック神父が紹介され
た。ミサ後、司祭たちは会
場を教区本部に移しコンベ
ンツスへと臨んだ。

今年度予算を審議

教区経済問題評議会

4月13日（日）午後、教
区本部を会場にインターネッ
トも利用して2025年度の
予算について審議する経済問
題評議会が開催された。今

教区人事

▼**栃尾泰英神父**（名瀬聖心
教会主任司祭）は3月19
日付けで奄美地区司教代
理（地区長）。任期は3
年。

司祭の異動

▼**テヨドル・メニツヒ神父**
は5月1日付けで川内教

会主任司祭を解任。
▼**福岡英雄神父**（谷山教会
助任司祭及び入来教会管
理者）は、5月1日付け
で川内教会と入来教会主
任司祭。

▼**鄭容旭**（チョン・ヨンウ
ク）神父（韓国管区）
は、5月13日付けで谷山教
会助任司祭。
※いずれもレデンプトル
修道会。

カトリック墓地の現状

カトリック唐湊墓地には約410区画があり、使用されているのは340余。残り区画は70余となっている。納骨堂に関しては、120区画の内70区画が埋まっており、残りは50となっている（2025年4月15日現在）。

「墓地を使用したい」という信者には、墓地使用権

利金として1区画あたり30万円（大きな墓を希望し2区画を利用して墓石を建てる場合は2区画分の権利金が必要）を納入してもらい、また墓地管理費としても1区画、年間3千円をお願いしている。管理費の案内は、死者の月の11月。

墓地の使用者は主に鹿児島市内と近郊在住の信徒とその関係者（ただし市外・県外在住の使用者也約160人）で、鴨池教会、谷山教会、ザビエル教会では教会事務所と墓地委員である程度の墓地使用者を把握し、管理費を徴収している。

かつては鹿児島市内の教会には墓地委員が存在し、



墓地使用者の把握と管理費徴収を行っていたが吉野教会、紫原教会、玉里教会では高齢化や死亡、転居のため早々に墓地委員が途絶えてしまい、その後、その役を引き受ける人がいなくな

ったためやむなく本部での管理となっている。ザビエル教会や鴨池教会でも墓地委員は不在の状態だが、教会事務員がそれを代行してくれている。

本部で管理する場合の問題点は、墓地使用者の動向（転居や死亡、教会離れ）が分からず、連絡が取れなくなってしまうことである。また小教区での管理を引き受けてくれている教会においても「私はもう教会に行っていない」、「代替わ

カトリック唐湊墓地・納骨堂について

現状報告と手続き今後の検討課題

りして私は信者でない」からと小教区での管理が難しくなっている使用者も増加している。

これらの方への連絡は可能であれば本部から行うことにしてはいるが、その多くはある期間が経過すると連絡が取れなくなってしまうのが現状である。因みに本部で管理している数は約200、そのうちの50余りは行方知れずで、墓地管理費納入のお知らせを郵送しても宛先知らずで戻ってくるのが現状である。

これは、墓地の使用権は父母、あるいは祖父母など信者が

申請し権利を得たが、子、孫に信仰が伝わっていないために教会の一員ではなくなり、そのため墓地の継承手続きがなされていないことが多い。

また小教区に墓地委員がいなくなったために、前述の墓地使用者の動向などが把握できなくなっていることも一因である。今後、検討しなければならないことと思われる。

カトリック墓地、納骨堂、合祀墓の申込

カトリック墓地、納骨堂、合祀墓使用のための申込が必要になる。

①「カトリック唐湊墓地に関する使用権申請書」を

提出

②「誓約書」を提出

③使用金を指定の口座に振り込む

④振込が確認されたら権利証の発行

※①②については所属教会の主任司祭のサインが必要。

カトリック墓地、納骨堂、合祀墓への納骨手続き

①納骨届の提出

②役所からの死体埋（火）葬許可書の提出

※①については主任司祭のサインが必要

改葬等の手続き

教区本部への問い合わせで、最近多くなったのは

納骨堂と合祀墓について（規格）

納骨堂（残り区画約50）

家族で、夫婦で、親族で使用可能

納骨堂1区画の内部寸法は幅40cm・奥行30cm・高さ30cmで、一般的な骨壺（6寸サイズ≒直径19cm）が2つ入る大きさ。納骨堂に収める骨壺が複数ある場合は、事前に再火葬を行い「骨壺をまとめる」あるいは「骨壺サイズを小さくする」必要がある。

合祀墓

1人信者向け（他の信者と共に納骨）

合祀墓に収める骨壺のサイズは4寸≒直径13cm。

カトリック墓地から他の墓地・納骨堂へ移す場合

「墓じまい」と「改葬」（遺骨の移動）である。亡くなった先祖に対する思いや埋葬・納骨に関する思いに変化があるのかもしれない。様々なケースが存在する

①教区本部に「カトリック唐湊墓地使用権放棄届」の提出

②役所への改葬許可申請・鹿児島市の所定の用紙に必要事項を記入の上、教区本部での証明（押印）を得て鹿児島市環境衛生課斎園係へ提出。

カトリック墓地からカトリック墓地内納骨堂・合祀墓へ遺骨を移す場合

ため、概略を紹介したい。

カトリック墓地からカトリック墓地内納骨堂・合祀墓へ遺骨を移す場合

①教区本部に「カトリック唐湊墓地使用権放棄届」の提出

②納骨堂（合祀墓）の使用権の取得

・使用権申請
・使用誓約書の提出
・使用権利金の納入（納骨堂40万円、合祀墓1壺につき10万円）

※使用権申請と使用誓約書は、所属小教区の主任司祭の承認が必要。収容されている遺骨の一部

部だけを移す場合は①は不要。



※受け入れ先によっては再火葬が必要となる場合がある。収容されている遺骨の一部だけを改葬する場合は①は不要。

他の墓地からカトリック墓地・納骨堂・合祀墓に移す場合

墓地によって管理実態が異なるため、墓地管理者に改葬の旨を連絡し、墓の撤去等についての必要事項を確認する必要がある。

改葬許可申請書に墓地管理者から現在遺骨が収蔵されていることの証明をもらい、改葬先に「カトリック墓地・納骨堂・合祀墓」を記入し、遺骨が収められて

いる自治体に提出。これは遺骨の再火葬の有無にかかわらず必要となる。

遺骨の移動にあたっては、受入証明書の提出を求められる場合があり、その際は発行された書類に教区本部が捺印し、その書類を

これまでの墓地管理者に提出する。

墓石撤去や手続き代行に関する各種費用（資料提供は前迫石材株式会社）

(1)墓石の撤去工事費用20〜35万円程度（撤去・処分する石材の数量、墓地の状況によって変動）

(2)遺骨の再火葬代行費用3万円（骨壺代別）

※鹿児島市以外に居住の場合4万円

(3)手続き代行費用2万5千円（鹿児島市への改葬届・再火葬に伴う使用許可申請等の行政手続き）

(4)納骨堂及び合祀墓への文字彫り費用2万円（洗礼名・名前・没年月日・享年）

問合せ 前迫石材株式会社（鹿児島市谷山港2-1-5）TEL 099（261）

9000 担当 前迫拓実（携帯電話080-1491517342）

SAU TẤT CẢ, TA CÒN LẠI GÌ!

Sống chung- khác biệt là điều không thể tránh khỏi. Nhưng điều quan trọng phía sau sự khác biệt đó đôi bên sẽ ra sao? Bạn và tôi, hai con người khác nhau về tính cách, lối sống, thói quen, môi trường giáo dục...được đặt để sống chung dưới một mái nhà, xuất phát điểm không phải vì yêu mà đến. Thế nên, để hoà hợp không phải điều đơn giản. Từ những chuyện nhỏ khó bỏ qua được, rồi bao cuộc cãi vã, ẩu đả, chêm giết lẫn nhau, gây ra những hậu quả to lớn đáng tiếc. Có lẽ bạn và tôi, không ai có kinh nghiệm sống tập thể. Nếu may mắn, chúng ta gặp được người tử tế, hiền lành, dễ thương,...thật phúc biết bao. Chắc hẳn, công việc bên ngoài dù nặng nhọc cỡ nào đi nữa, khi về ngôi nhà chung ấy ta vẫn cảm thấy nhẹ nhàng thanh thoi, được nghỉ ngơi và vui biết bao một nhọc. Còn nếu không, sự mệt nhọc thể xác mỗi ngày, cộng thêm bầu khí căng thẳng của ngôi nhà chung kia chắc chắn khiến ta tiêu hao rất nhiều năng lượng và khiến ta muốn quy ngã. Bạn ơi, ở gia đình bạn là công chúa là hoàng tử, thì tôi cũng là tiểu thư là cậu ấm. Ai cũng được bao bọc yêu thương. Chính điều đó cũng làm ta trở nên gai góc, phòng vệ khó ai đụng chạm được ta. Nhưng sống tập thể nơi đây, tất cả chúng ta đều khá giống nhau khi lia xa gia đình, xa người thân, xa quê hương đất nước,...Nếu không nhận người đang sống chung, sống cùng làm người thân, làm bạn bè, người cùng dòng máu dân tộc thì cô đơn biết bao. Cãi nhau, hiềm khích, "chiến tranh lạnh" vẫn cứ xảy ra, nhưng ngạt nổi vẫn phải ở chung. Có yêu thương mới hy sinh, có yêu thương mới biết từ bỏ, có yêu thương mới dám chấp nhận nhau. Nếu bạn chưa yêu tôi được cũng không sao, vì tôi cũng chưa yêu bạn được. Nhưng chúng ta cùng ý thức rằng: chưa giúp được người thì cũng đừng hại người, dù chỉ là chuyện nhỏ như: nói xấu, hạ thấp người khác để lấy uy tín,... Nếu không quan tâm giúp đỡ nhau được như những người bạn, thì cũng đừng bởi lòng tìm vết như kẻ thù. Hãy để thời gian sống chung với nhau trở thành những ký ức vui vẻ, và mối tương quan của chúng ta còn có thể kéo dài đến mai sau, để khi bất chợt gặp trên dòng đời hối hả, ta vẫn có thể cười được với nhau. Thế là đủ. Cãi nhau không phải để "ghim" tại đó, nhưng là bước ra để hiểu nhau hơn và cùng nhau xây dựng cuộc sống chung tốt đẹp hơn, là bước ra khỏi cái tôi của mình đứng vào vị trí của đối phương để suy nghĩ và hành động. Chuyện lớn hóa nhỏ, chuyện nhỏ cho qua. Cuộc sống vốn đã áp lực rồi, nên đừng để mình trở thành áp lực cho người, cũng đừng vội khai tử nhau trong chính trái tim mình. Vì sau tất cả, ta còn lại được gì? Được mất hơn thua cũng đều trở nên vô nghĩa. Chính cuộc sống chung với những khác biệt, có va chạm, có cãi vã,...mới là cơ hội cất tĩa những gai góc của tôi hôm nay để có được tôi trưởng thành trong tương lai.

Lucianhthy (spp)

新たな未来のためへの第一歩に 献堂50周年を迎えた種子島教会が記念ミサ

3月23日（日）、種子島教会（主任司祭・鈴木康由神父）は、中野裕明司教とともに献堂50周年を記念するミサをささげた。

で鹿児島を追われたカタリナ永俊尼（島津光久の祖母ともされる）が共同体を築いたと言われる歴史ある島。この地での宣教は1930年代にフランシスコ会によって進められたが、戦争のため途絶えてしまっている。

戦後、宣教が再開されたのは1965年ごろのこと。ザベリオ宣教会のバルビーニ神父によってであった。当時、宮崎地区を担当していたバルビーニ神父は、月に1度、種子島を訪問し信徒の家で家庭ミサをささげるなどしていたという。



丘の上に立つ種子島教会

「聖堂が欲しい」との信者たちの要



司式する中野司教

1たちも「教会堂建設の一助に」とスコップを手に取り、教会の基礎づくりのための穴掘りに精を出したとのことだった。

望が上がりそれに応えるように、バルビーニ神父のあとを任された同会のルチアノ・マゾッキ神父が教会建設に乗り出した。

マゾッキ神父は地元のパン屋でのパン配達や肉体労働のアルバイトで資金作りを始めた。またその姿に促されるように信者たちも寄付集めに奔走した。

鈴木康由神父の50周年を迎えてのことば

中野司教様の司式により3月23日（日）に種子島教会の献堂50周年記念ミサがささげられました。

聖堂名が「聖霊」であるこの教会は海・丘・街の三方向に向かつて広がる屋根に特徴があります。それぞれの場所で働く人々すべてに神様の祝福があるようにと祈る心が表現されているこの教会を通じてこれからもきつと聖霊は種子島で共に働き続けてくださることでしょう。

この日のミサは次の50年に向けての始まりのミサでもありました。信仰の継承が難しい時代にあるからこそ聖霊の助けを祈り求めなければなりません。種子島教会は神様の試みを経た貴い隅の石としてあり続けたいものです。

信者たち約60人とともに本土と奄美大島の間の地区で信仰を証しし続けている。教会ではこの記念の年に聖堂の補修工事を計画し、現在、募金活動を実施している。

また主任司祭の鈴木神父は、これまでの歴史や関係者の言葉をまとめた記念誌をPDFデータとしてまとめ希望の小教区へ配布することになっている。

イグナチオの霊操②③

紫原教会主任司祭 貴島 丈弥



霊の識別（5） 第一週の悪霊の識別

今回は、悪霊の誘惑の段階を見ていきたいと思います。アルペは、まず悪霊は二つの欲によつて誘惑をすると説明します。

まずは、肉の欲です。飲食、睡眠、またはその他の官能的な肉の欲です。この欲は、大罪から大罪を重ねていくような悪霊に対して使われる手段で、悪霊にと

つても容易な方法です。二段階目の欲による誘惑は、世の欲と言うことができます。

野心、傲慢、高ぶる心といったようなこの世の支配者となることへのあこがれの心を抱かせようとする誘惑であり、「二つの旗」の黙想で見たように、悪霊の頭であるルシファアの手下となるよう導かれてしまいます。この世の欲は、肉の欲よりも強力なものなの

で、前の肉の欲を退けた時よりもさらに強い覚悟と意志をもつて退けなければなりません。

これら二つの誘惑が何もうる効果のないのを知ると、悪霊はさらに強く狡猾な手段を用います。

人の心に怒り、短気、妬み、怠惰、すさみ、疑い、心配、不安や恐れを起こさせることもできます。それらは、その人の性格や精神的な病や障害から来るものではなく、悪い霊によつて引き起こされるものです。

わたしも助祭叙階前、8日間の霊操を行った時に少し体験しました。突然、過去に起こしてし



ドレ「キリストの誘惑」

霊操中だけではなく、霊的に成長している時に必ず邪魔が入ると言われています。そので、同伴者による識別が必要になってきます。

わたしたちの弱点を知り尽くしている悪霊は、このように霊的荒みへと悪霊を落とすし込もうとし、善霊は、これとは対照的に霊的慰めへと導こうとされます。悪霊者の悪霊がどういう状態にあるのかを、同伴者は識別しなければなりません。

参考文献

ペドロ・アルペ、キリストの道 第三巻 第二週

会 と 催 し 5月

3日（土）聖フィリポ 聖ヤコブ使徒

▼藤澤義義神父霊名（聖フィリポ）

▼石田望神父霊名（聖フィリポ）

4日（日）復活節第3主日

▼盛克志神父叙階記念（1991年）

6日（火）レデンプートル宣教修道女会来日60周年記念ミサ・谷山教会・11時

7日（水）中野アカデミー・教区本部・13時30分

10日（土）青年会・教区本部・18時

11日（日）復活節第4主日

▼世界召命祈願の日

13日（火）教区司祭会・教区本部・10時

▼みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時

14日（水）聖マチア使徒

▼中野アカデミー・教区本部・13時30分

17日（土）バルナルディーノ・オローフオ神父叙階記念（1998年）

18日（日）復活節第5主日

▼丸野六雄神父命日（2023年）

20日（火）バルナルディーノ・オローフオ神父霊名（聖ペルナルディーノ）

21日（水）中野アカデミー・教区本部・13時30分

23日（金）ERSTワークシヨブ・教区本部・14時

24日（土）聖書の分かち合い・教区本部・14時

25日（日）復活節第6主日

▼世界広報の日（献金）

福音宣教はわたしたちの使命です。「世界広報の日」は、この福音宣教の分野でもとくに新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、映画、インターネットなどの広報媒体を用いる宣教について、教会全体で考え、反省し、祈り、献金をささげる日です。日本のようにマスコミや技術の進歩している国では、広報が社会や文化に及ぼす影響ははかりしれないものがあります。広報の重要性を再認識し、広報を通して社会と人々にどのようにかわつていくことができるか、また、実際のようにかかわっているかを考えることが大切です。

「世界広報の日」は、第2バチカン公会議で定められ、1967年以来、毎年教皇メッセージが出されています。なお、多くの国では復活節第7主日をこの日に定めています。

▼助祭叙階式・ザビエル教会・15時

▼オリーブの会・教区本部・14時

28日（水）中野アカデミー・教区本部・13時30分

31日（土）聖母マリアの訪問

▼グエン・ホグ・タム神父叙階記念（2007年）

【司教日程】7日中野アカデミー、13日教区司祭会及びカリタス鹿児島、14日中野アカデミー、21日中野アカデミー、22日聖マリア学園及びカトリック幼保連盟、25日助祭叙階式、28日中野アカデミー

祈りの意向

【祈祷の使徒会】

教 皇 労働条件
日本の教会 子ども

青年の奄美巡礼を振り返って

玉里教会 迫田 菜々海

はじめに
奄美大島は、独特の文化と豊かな自然が魅力の島です。

鹿児島市内の青年3人に加えて貴島、李の両神父様の同伴で実施された今回の巡礼（2月23日～26日）では、奄美大島の信仰文化や美しい風景、そして地元の人々との交流を通じて、多くの学びと感動を得ることができました。本レポートでは、その巡礼の様子を振り返り、印象に残った出来事や場所について紹介



郡山司教様と一緒に島の伝統料理を堪能

します。

1日目■浦上教会での交流

初日は、浦上教会で島の信者さんたちと共に過ごしました。

郡山司教様の「手作り和不揃い」というテーマでの話を聞き、信者の皆さんに作っていただいた島の伝統料理を楽しみました。郡山司教様の話は、手作りの温かさや不揃いの美しさについて触れ、交流を通じて新たな発見や出会いがありました。

2日目■教会めぐりとカヌー体験

2日目は、奄美大島の教会めぐりとカヌー体験を楽しみました。訪れた教会は、浦上教会、大熊教会、芦花部教会、瀬留教会、大笠利教会、聖心教会です。各教会での訪問は、それぞれ異なる歴史と雰囲気を感じることができ、非常に興味深かったです。その後、郷土料理の鶏飯を堪能し、住用川マングローブ林

でカヌー体験をしました。マングローブ林の中をカヌーで進むと、自然の美しさと静けさに心が癒されました。

3日目■加計呂麻島の探訪

3日目は、加計呂麻島を訪れました。瀬戸内町からフェリーで



名瀬聖心教会で

4日目■赤尾木教会での談笑と帰宅

最終日は、朝に赤尾木教会を訪れ、この数日間食事の用意をしてくださった信者の皆さんと談笑しました。お土産をたくさんいただき、帰りの飛行機内では温かく迎えてくださった皆さんへの感謝の気持ち

ちでいっぱいでした。

おわりに

奄美大島の巡礼を通じて、独自の信仰文化や自然の美しさ、そして地元の人々の温かさに触れることができました。この経験は、私にとって忘れられない思い出となりました。

6月から講座開講

鹿児島きぼうの電話

鹿児島きぼうの電話（山口寛子代表）では、37回目となる「カウンスリング講座」を6月から開講することにし、現在、講師陣との調整を行っている。

山口代表は「悩みを抱える人たちの話を聞く相談員になることもできる講座。できることなら多くの人に

相談員になってもらいたいが、たとえ相談員にはならなくてもこの講座では人間関係をよりよく保つためのヒントが得られる。多くの人に受講して欲しい」と願っている。

講座は6月から11月まで説明会を含めて16回ある。すべての講座は土曜日の14時からの開講で、教区本部2階会議室が使用される。受講料は1万円（学生5千円）。問合せは山口代表まで（TEL 090-11162-7372）

「短信」

▼青年会が四旬節黙想

3月23日（日）13時からマリア山荘にて教区青年会の四旬節黙想会が実施された。指導は青年担当の貴島

丈弥神父。参加青年は3人で、他に司祭が2人が同伴した。

貴島神父による講話、個人黙想、分かち合いの時間の後、聖体賛美式で締めくくられた。また黙想会終了後は皆で夕食のひとときをともにした。

▼幼稚園新職員研修会

新年度開始にあたって鹿児島教区カトリック幼保連盟（会長・中野裕明司教）では、4月12日（土）午前、ザビエル教会主聖堂で新任の職員を対象に研修会を開き、中野司教に訓話してもらった。

その後、鹿児島教区が経営母体となっているカトリック大隅学園（久保直基理事長）と聖マリア学園（泉浩二理事長）では辞令交付式を実施し、新任の職員に辞令を交付した。



要理

皆さんは自分の名前が好きですか。私は子供のとき自分の名前が大嫌いでした。ですからある日、父親に名前の由来を聞きました。すると父は二人の兄の名前は自分がつけたのに、私の名前はどこかの神主さんにつけてもらったという話を話してくれました。

名前を付けるということ

ます。

理由は兄たちと私は歳が離れていたからだったようです。父によれば年齢が上がるにつれてだんだんと自分に自信が持てなくなってきたということでした。それにしても見ず知らずの人に名前

を付けられたなんて…と思うと複雑な気持ちになりました。そこで反抗期だった私は父親に「名前を自分でつけたい」というのは親の責任放棄だ！と言い放ったのです。私は父親の困った顔を見て何となく得意な気持ちになったことを今でも覚えてい

ます。それから数日後のことです。父親は突然、「犬を飼うことにする。だからお前が名前を付けろ」と言いました。びっくりしましたが私は「犬の名前くらいはすぐにつけられる」と簡単に考えていました。

さて一週間後、本当に犬が家にやって来たものの名前はぜんぜん浮かんできませんでした。そのため夕食時に父親から「名前は決まったか」と聞かれる日々が続きました。

さあ、この後どうなったと思いますか。ちゃんと名前を付けられたでしょうか…。